

北海道大学麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

プログラム全体の麻酔科管理件数は6万件以上であり、各必須症例も豊富な症例を有している。集中治療やペインクリニック(緩和)なども経験できる病院も沢山ある。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち6ヶ月は、北海道大学病院で研修を行うサンドイッチ方式で研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- 最初の大学病院(北海道大学)研修では、充実した指導医の下、まずは麻酔学の基礎や基本手技をしっかりと学ぶ。また、希望等を考慮して、集中治療やペインクリニック、緩和医療等の研修も行う。さらに学会発表を最低1回は行い、アカデミックの基礎を学ぶ。このように専門医研修の最初から、**侵襲制御の世界へのearly exposure**に

務めている。

- 後半の大学病院研修では、(小児)心臓手術や移植などを含めた難度の高い麻酔症例も主たる麻酔科医として管理が出来るようになることを目指す。また、集中治療やペインクリニック、緩和医療等の研鑽も一層強化していく。このようにして、**侵襲制御のコンセプトに合致した優秀な麻酔科医の育成に努めていく。**
- 地域医療の維持のため、最低でも3ヶ月以上は地域医療支援病院である砂川市立病院、函館中央病院などで研修を行う。また、連携プログラム候補として、非シーリング地区の名古屋大医学部附属病院、獨協医科大学埼玉医療センター、山形大医学部附属病院、北里大学病院を設定した。
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、小児・周産期診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例B）、ペインクリニック・緩和を学びたい者へのローテーション（ローテーション例C）、集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。

	A (標準)	B (小児・周産期)	C(ペイン・緩和)	D (集中治療)	E(道外連携施設)
初年度	北海道大学病院	北海道大学病院	北海道大学病院	北海道大学病院	北海道大学病院
2年度	専門研修連携施設	専門研修連携施設(天使, 札幌市立, 函館中央など)	専門研修連携施設(JCHO北海道, 恵佑会札幌など)	専門研修連携施設(KKR札幌, 砂川市立, 溪仁会など)	道外連携施設(名古屋大学, 獨協大学など)
3年度	専門研修連携施設	専門研修連携施設(天使, 札幌市立, 函館中央など)	専門研修連携施設(JCHO北海道, 恵佑会札幌など)	専門研修連携施設(KKR札幌, 砂川市立, 溪仁会など)	道外連携施設(名古屋大学, 獨協大学など)
4年度	北海道大学病院・専門研修連携施設	北海道大学病院・専門研修連携施設	北海道大学病院(ペイン・緩和)・専門研修連携施設	北海道大学病院(集中治療)・専門研修連携施設	北海道大学病院・専門研修連携施設

週間予定表

北海道大学病院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	術前外来	手術室	手術室	勉強会 (月数回)	休み
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

北海道大学病院

研修プログラム統括責任者: 森本 裕二

専門研修指導医:

森本 裕二(麻酔, ペインクリニック, 集中治療)

瀧田 恒一(麻酔)

敦賀 健吉(麻酔, 緩和)

内田 洋介(麻酔)

斉藤 仁志(麻酔, 集中治療)

干野 晃嗣(麻酔, 心臓血管麻酔、集中治療)

藤田 憲明(麻酔)

相川 勝洋(麻酔, 神経ブロック)

西川 直樹(麻酔, 集中治療)

三浦 基嗣(麻酔, 緩和)

藤井 知昭(麻酔, ペインクリニック)

久保 康則(麻酔)

前田 洋典(麻酔、緩和)

水野谷 和之(麻酔, 心臓血管麻酔、集中治療)

山本 真崇(麻酔)

専門医:

糸洲 佑介(麻酔, 心臓血管麻酔)

土岐 崇幸(麻酔, 集中治療)

打浪 有可(麻醉)
中峯 奈央子(麻醉)
武田 圭史(麻醉)
八木 泰憲(麻醉)
秋田敬介(麻醉)
佐々木慶子(麻醉)
副島崇旨(麻醉)

認定病院番号 7

特徴:移植や小児心臓手術などの高難度症例を含め、北海道の最後の砦病院として、困難かつ多彩な麻酔管理を数多く施行している。また、ペイン、緩和、集中治療(クローズト)を麻酔科主体で運営しており、研修早期からの、それらのローテーションを通じ、専門医研修の初期から侵襲制御の世界へのearly exposureに務めている。

② 専門研修連携施設A

1 市立札幌病院

研修実施責任者:伊東 義忠

専門研修指導医:

伊東 義忠(麻酔)
檀上 渉(麻酔)
木谷 友洋(麻酔)
森 敏洋(麻酔)
富永 拓(麻酔)
目黒 泰輝(麻酔)
原田 聡子(麻酔)

専門医:

萩原 綾希子(緩和)
梅本 ふみ(麻酔)
那須 智樹(麻酔)
渡邊 麻紗子(麻酔)
佐藤 美奈(麻酔)

認定病院番号 69

特徴:札幌市の中核病院としての豊富な症例、救急やNICU症例なども多い。特殊管理症例もすべて含む。

2 KKR 札幌医療センター

研修実施責任者:山根 真央

専門研修指導医:

山根 真央(麻酔, 集中治療)

渡部 亮(麻酔,集中治療)

瀧川 千鶴子(緩和)

加藤 亮子(麻酔)

専門医:

大崎 響子(麻酔)

中尾 麻琴(麻酔、心臓麻酔)

坂井俊朗(麻酔、心臓麻酔)

認定病院番号 558

特徴:集中治療認定病院, 和痛分娩,緩和

3 JCHO 北海道病院

研修実施責任者:笠井 裕子

専門研修指導医:

笠井 裕子(麻酔, ペインクリニック)

実藤 洋一(麻酔, ペインクリニック)

神田 知枝(麻酔, ペインクリニック)

専門医:

前鼻 沙也香(麻酔)

認定病院番号1171

特徴:ペインクリニック専門医指定研修施設,周産期医療センターとして帝王切開症例が多い

4 JCHO 札幌北辰病院

研修実施責任者:塩谷 勉

専門研修指導医:

塩谷 勉(麻酔)

原口 文彦(麻酔, 緩和)

関下 純可(麻酔)

認定病院番号567

特徴:小児,緩和

5 天使病院

研修実施責任者:石川 太郎

専門研修指導医:

石川 太郎(麻酔,蘇生,高気圧酸素治療)

仙葉 有紀(麻酔)

認定病院番号 1042

特徴:周産期母子医療センターとして帝王切開,小児症例多い,高気圧酸素治療,和痛分娩

6 札幌厚生病院

研修実責任者:松村 千穂子

専門研修指導医:

大久保 和章(麻酔)

松村 千穂子(麻酔)

土屋 淳(麻酔)

櫻谷 文香(麻酔)

長谷 徹太郎(麻酔、ペインクリニック)

専門医:

北條 絵理(麻酔)

認定病院番号 177

特徴:消化器外科症例多く,集中治療やペインクリニックも研修可能

7 旭川厚生病院

研修実施責任者:菊地 信明

専門研修指導医:

菊地 信明(麻酔,集中治療)

柳田 翼(麻酔,集中治療)

大友 重明(麻酔)

高畑 治(麻酔)

赤坂 直哉(麻醉)

専門医:

塚田 朗(麻醉)

島田衣(麻醉)

認定病院番号 514

特徴:旭川の周産期母子医療センター, 緩和

8 北海道大野記念病院

研修実施責任者:原澤 克巳

専門研修指導医:

原澤 克巳(麻醉)

枝窪 俊輔(麻醉)

認定病院番号 1032

特徴:全国的に心臓手術で有名な施設

9 手稲溪仁会病院

研修実施責任者:横山 健

専門研修指導医:片山 勝之(麻醉, 集中治療)

横山 健(麻醉, 集中治療)

曾根 哲寛(麻醉, 集中治療)

上村 亮介(麻醉, 集中治療)

武田 美和子(麻醉,)

西村 一美(麻醉,)

石原 聡(麻醉, 集中治療)

岩井 英隆(麻醉、集中治療)

専門医:

山口 春子(麻醉, 集中治療)

坂下 実香子(麻醉、集中治療)

西田 遼子(麻醉)

相澤 茉莉子(麻醉、集中治療)

秋本 貴子(麻醉、集中治療)

泉 侑希(麻醉、集中治療)

認定病院番号 486

特徴:札幌の中核病院の一つ, 集中治療, ペインクリニック, 緩和, 救急研修可能

10 小樽協会病院

研修実施責任者:井上 彰

専門研修指導医:

太田 善博(麻酔)

井上 彰(麻酔)

認定病院番号 952

特徴:小樽の中核病院

11 恵佑会札幌病院

研修実施責任者:小村 好弘

専門研修指導医:

小村 好弘(麻酔)

森本 佳子(麻酔)

青山 真樹(麻酔)

早坂 怜(麻酔, 集中治療)

認定病院番号 742

特徴:全国有数の食道癌手術症例数, 緩和

12. 札幌徳洲会病院

研修実施責任者:出内 なつ子

専門研修指導医:

奥山 淳(麻酔)

出内 なつ子(麻酔)

久野 健二郎(麻酔)

専門医:

戸ノ崎 拓哉(麻酔)

久保 智紀(麻酔)

認定病院番号 782

特徴:四肢外傷や骨盤骨折,消化管穿孔などの救急症例が多い.

13 北海道整形外科記念病院

研修実施責任者:玉川 心吾

専門研修指導医:

牧瀬 則子(麻酔)

玉川 心吾(麻酔)

堀口 貴行(麻酔)

認定病院番号 1647

特徴:北海道の有数な整形外科病院の一つ,ブロックなどの症例豊富

14 斗南病院

研修実施責任者:中村 高士

専門研修指導医:

中村 高士(麻酔)

佐藤 大輔(麻酔)

安藤 義崇(麻酔,集中治療)

専門医:

長谷川 志生(麻酔)

認定病院番号 138

特徴:豊富な小児症例,消化器症例

15 勤医協中央病院

研修実施責任者:古明 地恭子

専門研修指導医:

古明地 恭子(麻酔,ペインクリニック)

藤原 幹人(麻酔)

高桑 良平(麻酔,感染)

盛永 直樹(麻酔)

脇坂 マリコ(麻醉)

田中 進一郎(麻醉, 集中治療)

専門医

身崎 伊織(麻醉)

高橋 聡(麻醉)

認定病院番号：181

特徴：急性期・救急医療, がん診療, そして専門的医療を柱に地域連携を進めている。救急車の搬入件数は道内上位である。臨時手術や合併症を有する高齢者の手術が増加している。教訓的症例については症例検討会を行っている。集中治療やペインクリニックの研修も可能である。

16 名古屋大学医学部附属病院

研修実施責任者： 西脇 公俊

専門研修指導医： 西脇 公俊(麻醉、集中治療、ペインクリニック)

荒川 陽子(麻醉)

柴田 康之(麻醉、ペインクリニック)

鈴木 章悟(麻醉、集中治療)

関口 明子(麻醉)

浅野 市子(麻醉、ペインクリニック)

新屋 苑恵(麻醉、ペインクリニック、心臓血管麻醉)

安藤 貴宏(麻醉、ペインクリニック)

中村のぞみ(麻醉)

尾関 奏子(麻醉、集中治療)

平井 昂宏(麻醉、集中治療)

赤根亜希子(麻醉、ペインクリニック)

佐藤 威仁(麻醉、心臓血管麻醉)

専門医： 田村 高廣(麻醉、集中治療、心臓血管麻醉)

絹川 友章(麻醉、ペインクリニック)

駒場 智美(麻醉)

神野 真穂(麻醉、ペインクリニック)

二宮菜奈子(麻醉)

藤井 祐(麻醉、心臓血管麻醉)

横山祐太郎(麻醉、集中治療)

前田 翔(麻酔、集中治療)
天野 靖大(麻酔、集中治療)
三澤 知子(麻酔)
喜多 桂(麻酔、集中治療)
高倉 将司(麻酔、集中治療)
山田 章宏(麻酔、集中治療)

麻酔科認定病院番号:38

特徴:

年間6,000件以上の麻酔科管理症例を持つ名古屋大学医学部附属病院麻酔科では、超低出生体重児から超高齢者を対象にした手術麻酔の研修を行うことができます。

2013年から小児がん拠点病院の指定を受け、小児外科だけでなく小児整形外科、小児脳神経外科などの小児がんに対する外科的治療実績が豊富です。2021年度からは小児に対するDa Vinci手術を開始する予定です。

帝王切開術は、様々な母子合併症を伴う症例を中心に施行されており、超緊急帝王切開術では手術決定から30分以内の娩出を達成すべく、産科と良好なコミュニケーションを取りながら迅速な手術が行える体制を整えています。

心臓血管外科の手術では、CABGや弁置換に加え、大血管手術も積極的に行っています。重症心不全センターを備えており、心移植の適応となる重症心不全の患者に対する体内式左室補助人工心臓(LVAD)植え込み手術を1年間に10例程度行っており、重症心不全患者に対する麻酔経験を積むことができます。将来的には小児心臓外科手術も始まる見込みです。

また、腎移植、肝移植、心移植の移植医療を行っており、移植医療の特殊な麻酔管理を経験することが可能です。

日本では数少ない麻酔科医を中心としたclosed ICUでの集中治療を備え、ペインクリニックは週3回の外来、及び入院患者の治療を行っています。そのため、手術麻酔だけでなく、集中治療やペインクリニックといった麻酔関連の周辺領域についても、十分な研修を修めることができる環境を整えています。

17 獨協医科大学埼玉医療センター

研修プログラム統括責任者:奥田泰久(麻酔、ペインクリニック)

専門研修指導医:浅井隆(麻酔、医学統計、気道確保)

新井丈郎(麻酔、心臓麻酔)

齋藤朋之(麻酔、気道確保)

齊間俊介(麻酔、神経ブロック)

橋本雄一(麻酔, 産科麻酔)

鈴木博明(麻酔, 心臓麻酔, 小児麻酔)

専門医:

河津裕美(麻酔)

山田真樹(麻酔, ペインクリニック)

金子瑞恵(麻酔, ペインクリニック)

仲田麻衣(麻酔)

遠藤聖子(麻酔, 小児麻酔, 心臓麻酔)

高橋慧 (麻酔, 心臓麻酔)

立川真人(麻酔)

認定病院番号:339

特徴:TAVIやステントグラフトなどのハイブリット手術, ダヴィンチ手術, Awake craniotomy, 腎移植術など, 幅広く症例を経験出来る.

18 山形大学医学部附属病院

専門研修責任者: 川前金幸

専門研修指導医: 川前金幸

岡田真行

飯澤和恵

鈴木博人

成澤あゆ香

黒田美聡

松浦優

八島望

中村直久

森谷真知佳

鎌水健也

早坂達哉

小野寺悠

麻酔科認定病院番号133

特徴：集中治療，ペインクリニックのローテーション可能．心臓血管麻酔専門医
認定施設．

19 北里大学病院

プログラム責任者：岡本浩嗣

認定病院番号 78

プログラム責任者：岡本浩嗣

専門研修指導医：岡本浩嗣(心臓血管麻酔/小児麻酔)

奥富俊之(麻酔，産科麻酔)

新井正康(麻酔，集中治療，医療安全)

金井昭文(ペインクリニック，緩和医療)

竹浪民江(区域麻酔)

黒岩政之(麻酔，集中治療，呼吸療法，急変対応)

安藤寿恵(心臓血管麻酔)

松田弘美(小児麻酔)

杉村憲亮(心臓血管麻酔，集中治療)

大塚智久(麻酔，集中治療，呼吸療法，急変対応)

吉野和久(麻酔)

伊藤諭子(麻酔，胸部外科麻酔)

日向俊輔(産科麻酔)

箸方紘子(麻酔)

西澤義之(麻酔，集中治療，呼吸療法，急変対応)

阪井茉莉子(麻酔，集中治療，呼吸療法，急変対応)

藤田那恵(産科麻酔)

関田昭彦(心臓血管麻酔)

高橋祐一郎(ペインクリニック，麻酔)

荒 将智(ペインクリニック，緩和医療)

近藤弘晃(産科麻酔，心臓血管麻酔)

本田崇紘(心臓血管麻酔)

川端茉莉子(麻酔)

認定病院番号 78

特徴:一週間の業務で、術前外来～手術麻酔～術後集中治療管理という一連の周術期管理をすることで、「患者目線の麻酔管理」「予後を意識した術中管理」を研修する。加えて、周産期全般に寄与する産科麻酔(無痛分娩管理, 帝王切開, 産科的処置)での3か月研修, ペインクリニック, 緩和医療といった病棟併診業務, 病棟発症の敗血症など院内重症者の初療と救命を目的とした活動である Rapid Response Team の研修を行う。また近年は、集中治療部門を中心に勤務のシフト制を導入し、医師の連続勤務時間の削減に成功した院内モデルケースとなっている。加えてミーティングや定期研修レクチャーは Zoom、連絡事項は LINE、研究成果や学会発表資料は DropBox で共有、論文抄読会は Slack でスレッドを立てて実施するなど、外部環境の激しい変化に対応した体制を整えている。

③ 専門研修連携施設B

1 砂川市立病院

研修実施責任者:雨森 英彦

専門研修指導医:

雨森 英彦(麻酔, 集中治療, 災害医療)

丸山 崇(麻酔, 心臓麻酔)

認定病院番号 313

特徴:心臓麻酔認定施設, 空知地区の中核病院として救急や集中治療の症例も豊富, 特殊管理症例もすべて含む。

2 函館中央病院

研修実施責任者:斉藤 達志

専門研修指導医:

斉藤 達志(麻酔, ペインクリニック)

瀧川 聡(麻酔, 集中治療)

伊藤 歩(麻酔)

専門医:

安藤 貴士(麻酔)

高島 史樹(麻酔)

認定病院番号 206

特徴:函館の周産期母子センター, 函館の中核病院として特殊管理症例をすべて含む.

3 札幌北榆病院

研修実施責任者:沼澤 理絵

専門研修指導医:

沼澤 理絵(麻酔, 緩和)

認定病院番号 681

特徴:腎不全患者の麻酔。日本緩和医療学会認定研修施設

4 北海道脳神経外科記念病院

研修実施責任者:堂崎 信一

専門研修指導医:

堂崎 信一(麻酔)

認定病院番号 1838

特徴:北海道の有数な脳神経外科病院の一つ.

5 華岡青洲記念病院

研修実施責任者:新井田周宏

専門研修指導医:

新井田周宏(麻酔)

認定病院番号 1959

特徴:循環器内科, 心臓血管外科, 麻酔科からなる新しい循環器専門病院であり, 患者さんに最適な医療の提供を目指す.

6 町立中標津病院

研修実施責任者:下馬場睦

専門研修指導医:

下馬場睦(麻酔、ペインクリニック)

認定病院番号 1138

特徴:道東地域の基幹病院。ペインクリニック研修も可能。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、北海道大学麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

北海道大学病院 麻酔科科長 森本裕二

医局長 藤田憲明

札幌市北区北14条西5丁目

TEL 011-716-1161(内線5982)

E-mail morim2@med.hokudai.ac.jp

Website <http://www.hokudaimasui.jp/>

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果(アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた1)臨床現場での学習、2)臨床現場を離れた学習、3)自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。希望等を考慮して、集中治療やペインクリニック、緩和医療等の研修も行う。さらに学会発表を最低1回は行い、アカデミックの基礎を学ぶ。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA3度の患者の周術期管理やASA1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。引き続き希望等を考慮して、集中治療やペインクリニック、緩和医療等の研修も行う。

専門研修3年目

心臓外科手術, 胸部外科手術, 脳神経外科手術, 帝王切開手術, 小児手術などを経験し, さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと, 安全に行うことができる. また, 引き続き希望等を考慮して, 集中治療やペインクリニック, 緩和医療等の研修も行う. また, 2, 3年目を通じ, 臨床研究や, その成果を学会や論文で発表し, アカデミックな面ものぼす.

専門研修 4年目

3年目の経験をさらに発展させ, さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる. 基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが, 難易度の高い症例, 緊急時などは適切に上級医をコールして, 患者の安全を守ることができる. また, 引き続き希望等を考慮して, 集中治療やペインクリニック, 緩和医療等の研修も行う. また, 臨床研究等への積極的な参画を促す.

9. 専門研修の評価(自己評価と他者評価)

① 形成的評価

- 研修実績記録: 専攻医は毎研修年次末に, 専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する. 研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される.
- 専門研修指導医による評価とフィードバック: 研修実績記録に基づき, 専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し, 研修実績および到達度評価表, 指導記録フォーマットによるフィードバックを行う. 研修プログラム管理委員会は, 各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し, 専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる.

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において, 専門研修4年次の最終月に, 専攻医研修実績フォーマット, 研修実績および到達度評価表, 指導記録フォーマットをもとに, 研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて, 各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識, ②専門技能, ③医師として備えるべき学問的姿勢, 倫理性, 社会性, 適性等を修得したかを総合的に評価し, 専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する.

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標, 経験すべき症例数を達成し, 知識, 技能, 態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である. 各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において, 研修期間中に行われた形成的評価, 総括的評価を元に修了判定が行われる.

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断, 研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

14. 本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての砂川市立病院、函館中央病院、旭川厚生病院など幅広い連携施設が入っている。また、道外連携病院候補とし

て、名古屋大学医学部附属病院、山形大学医学部附属病院と獨協医科大学埼玉医療センター、北里大学病院とも連携している。

医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。